

■市民参加型の計画とする

地域住民の幅広い意見、要望を聞き取り、安全で利用しやすい施設を目指した。計画段階から多くの市民に関心を持ってもらうことにより、施設に対する愛着が深まり、完成後の主体的な管理運営につながることを期待している。

■環境負荷を軽減した施設とする

既存の樹木がない状況から、緑を創出し、付近の樹木とあいまって緑化のモデルを目指し、計画地の近傍における景観、眺望、日照、騒音など、現状環境に負荷を極力少なく抑えている。また、海が近い為、津波発生時の避難場所となる屋上は、建物のボリュームが過大にならない様に軽量透視構造とし、避難デッキを設けている。



キッズルーム

■オープンなフリースペース

各階には一般に開放されたフリースペースを設け、誰でも気軽に立ち寄れる地域交流の場を作った。1階のフリースペースは外部広場、駐車スペースを含め、全面開放可能な開口により内外一体のイベント広場ともなり、毎月恒例のマーケットが開かれている。フリースペースからは各室に直接アプローチができる様に、入りやすいさも考慮している。また、屋上避難デッキは、非常時に視認されやすい位置となる様に、避難に容易な直接階段を設けた。



全景



フリースペース

建築作品部門

まちづくり全般

景観に負荷を与えることなく、地域に密着する

神奈川県茅ヶ崎市

松浪地域コミュニティセンター

茅ヶ崎市公共施設の再編計画における地域集会施設で12館構想の11館目として計画された施設である。この施設は地域住民が地域活動を通じ相互の連帯感と世代間の融合を図り、地域密着の場をつくりだすことを目指す施設である。また、自治意識を高め、心身の豊かさとふれあいを通じてコミュニティを発展させ、地域社会を形成する拠点となる施設でもある。そのため、このセンターは地域に開かれた開放性の高い施設として、イベントの開催などにより多世代の交流ができる施設計画となった。この地域の環境特性でもある相模湾に面する海岸ゾーンによって培われたコミュニティを、更に進化発展できればと考える。



応募代表者：山口 省一

株式会社 山口設計工房

昭和39年大矢根建築設計事務所

昭和46年山口設計工房設立

実務経験年数50年

地域に密着した建物創りとは、その街らしさを求め深めることが大切である。その街らしさとは、永年培った人々のくらしぶりを含め、背景となるその街のムーブメントを解析して、街なみを造りだした意味合いを見出し、それを資源と考え、新しい魅力を創りだす事と思っています。